



賢き道

金錢と云ふものは愛してもよくないが惡んでもよくないものである、マア世の中に無性至極な奴があつて閑で苦しむと云ふが人間日常爲すべきの仕事、努むべきの行爲、思ふべきの道義、讀むべきの書は決して缺乏を告げてはおらぬ、自分の爲、他人の爲苦勞することは寤寐にも怠つてはならぬことである、さるをひまで困る、無聊に苦しむと云ふは何事である、無性至極のものである、こんな人物は世の中の邪魔者である、夫れと同様に世の中には金錢を愛して金錢の外に何物もないと云ふ考をもつものがある、そんな人物は時鳥が鶯の巢

にある卵をけ飛ばして自分の卵を其跡に生み落し自分は常に樂々と天空を飛び廻はり自分の卵は鶯に苦勞をかけてすまして居ると同様だ、他人を働かして其利益を横領する者である、厄介な奴である、又金錢を惡む者がある、金錢を手にすると忽ち消費し無用な物品や贅澤なことをやつて湯水の様

に浪費するから一生金錢に困ることが絶へないことである、こんな人物は他人に迷惑をかけることが多いもので是亦迷惑至極な

しるものである。凡そ金錢と云ふものは自然の道に委かせて置かば安全に利殖されて行くものである。金錢は愛しても惡んでもよくないものであるのに世の中の人はとかく愛したり惡んだりし過ぎるのである。ど

注

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の投稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

うだ君達はどう思ふか木と去る賢き先輩から立話に訓へられたのである。なる程苦勞を重ねられた人の考である之れが世渡に賢き途である。(ヒカワ)

エンヤラヤ女群の猛襲

或る日出勤せんものと近くの電車停留場にたどりついた、電車待つ客十數人、折柄一臺の圓タクが停留場近く進み來たと見るや其處に電車まつエンヤラヤの女五、六人は其圓タクを取まき一人は運轉家に飛びつきて貨銀の交渉が始まつた、運公ナカノ承知しなかつたものと見て女群はアノエンヤラヤになされた大音聲で勢するどく詰めよる、車にはしがみついて居るので車は

動かない、エタリ賢し、猛襲益々甚しきを加へる、電車まつ客は我れを忘れて其成行や如何と首を延ばして見る内にやがて運公は手を伸して「市内一圓」の掛札を撤去したので、ア、一人前何錢かの割合の安賃銀で交渉となつたかと安心した風だつた。時代相の一として見逃すべからざるエンヤラヤ女群猛襲團タクの運公イジメ的一幕以上の如し街頭の一光景記して笑の種と爲す。(凡々生)

佛法に道なきか

人類淨化濟度を説く佛徒は説くのみにて實行の道なきか野路に山路に街路に人の進み行く道は數々あるなれど精神の向上し行く道がなくてはならぬことである。それで往昔から聖人や哲人や宗教人など數限りもなく生れ出て、それ／＼の道を説いたのであるが醫者の不養生や論語讀みの論語知らずと云へる諺は他人に對しては道を説くも自身は道に戻る生活を爲す者を指しての誠

言である。京都臨濟宗東福寺派大本山の管長尾關太老師は突如として身を隠した、其斯く失跡せねばならぬ理由があつて本人には辯明の言葉もあるであらう。乍去身は佛法を信じ佛徒を指導し身を以て其の範を示して後めたき事あるを許されない身分である。寺院建造物の築造や時折の説教や檀家の法事に臨むことは未葉の職分である、六百九十餘年前、聖一國師は何が爲めに開山したか、如何の目的あつて入宋し無準禪師に學んだか、關白九條道家は如何の因縁で歸依したか、結構の莊嚴華麗は誇るに足らない、思ひを茲に馳するときは尾關管長の心境如何、唯財寶の奴となり、名聲の爲めの奴隸となり、事なかれ主義の權化となり徒らに世人をして騒がしむるの行爲果して如何のことなるか、説法するも實行なきの宗旨にあらざるなきか、末世の今日佛法道なきに至りたるか唯時が解決するとのみで清算し得るものでない、だが笑ふ勿れだ口舌以て正義を説き墨筆以て佛法を論するも身

は常に猜疑嫉妬羨望の罪惡道に彷徨し自らを欺き他を傷る虚偽裡に懊惱する徒の少からざるの現代である、斯くては社會の淨化は何時に期待するを得べきか徒らに空言を弄するをやめよと大聲叱りたくなるぞよ。(憂國生)

人生の實習道

昔時から産兒の實習を経て婚嫁することを開かない、だが人生には實習が必要であることが澤山にある、實習とは云ふまでもなく其事柄に訓練を施こし人類社會に伍して常道を正しく踏み行く爲めである、故に其人の實習に依つて他人が迷惑を受け社會の平和保安が紊亂さるゝ様なことがあつてはならない、若しもそんな恐れがあるならばその實習は遠慮すべきである。所が世間では有閑婦人が半ば遊戲的に職業線上に立つと新聞紙などは佛でも天下つた騒ぎ方を爲すことが少なくない、例へば富豪の夫人が貧民界に顯はれて其等の生活苦に同情す

ると忽ち斯界の救世主の如く讃へられ自身も有頂天になつてアツパレーかどの社會事業家となりすまず、又有産階級の家庭に何の不自由もない身でありながら人生の實習と稱してデパートストアーや大店舗にショッパガールとして生活線に立つこととなると天使にでもなつたかの如くに賞讃するだが社會の一面には坐食して尙餘りある有閑有産階級の婦人達に比較の出來ない程みじめな貧困生活者があつて其子女は必死の覺悟を以て就業を求め一旦就職すると父母姉妹の爲めに眞に粉骨碎心自らに奉ずること極めて乏しきを餘儀せられて居る多數者があるのである。彼女達は衣裝に食事に化粧に交通に最低度のものに安んぜざるを得ない、然るに有閑有産の同一職場に在る婦人に伍しては其の遊戯的な餘裕のある就職振りに比して時に自分の身すばらしきを情なく感ぜしめらるゝであらう。斯くて有閑有産者達の生活實習はそんな遊戯的な餘裕のある仕事でなく日々の生活に逼迫せられ

ての職業婦人に對して甚大なる脅威を與ふるものがあることは争はれぬことである。人生の實習道は他に求むべきではなからうか、敢て識者の判断を俟つものである。(フミエ)

堀返しをやまぬ都會道

地下鐵道工事では沿道の建築物が傾いたとか井戸の水が減じたとか云ふことは屢々耳にする處であるが地上の街路即ち都會道ほど我々無産階級者への脅威は少なくなひ、何んと云ふても富豪者は自家用自動車もあれば圖タクでも不自由なく雇ひ得らるゝから都心を遠く隔つて居住するものである。感が薄かるうが都會若くは都會の場末附近に居住するを餘儀せられておる。小市民は路面の堀返しが多いことは至極不便を與へらるゝと不愉快な感を與へらるゝものである。電車線路の軌條取替、路床の改造、敷石の改修でさへ中々少ない、時に片側づゝならばまだしも同時に同側が施工せられ

沿道の居住者は勿論他の交通者もひどく困まらせらるゝが一度舗装も出來上りヤレ安心と思ふまもなく瓦斯管や電纜や電話線などの入れ替で鶴嘴が打ちふられる、ブレーカーが絶へ間なく奇聲を發する、下水道が築造又は改築せらるゝと數ヶ月間は泥のアルプスが造作せらるゝ雨が降ると木板や篋などで歩行の飛石が作られる、ので力強く踏むと背中はまだしも時に帽子までも泥のしぶきで洗禮を受ける、年がら年中堀返し工作が施されるのが都會交通の風景である。今は昔一米國人が東京の泥海を見て之れを歩み得るの人は二大汽船會社の社長であらうと評してバケツ演説をした爲めに道路の改良が大々的になつたと聞くが都會道の路面の堀返し工事に對しては何國からか何人を伴ひ來りて何んと批評せしめたなら其堀り返し工作が改善せらるゝであらうか道路改良會の方々の教示を仰ぎ度いものである。(一小市民)